

会 議 録		令和6年3月8日作成	令和9年3月末日廃棄
会議名	京都府下鴨警察署協議会（令和5年度第4回）		
開催日	令和6年2月20日（火曜日）		
時 間	午後4時から午後5時30分までの間（90分）		
場 所	京都府下鴨警察署3階講堂		
出席者	岩渕会長、鞍谷副会長、三浦副会長、寒河江委員、竹中委員、近藤委員、彦惣委員、松延委員、平塩委員、小川委員、小田委員、三宅委員、木山委員 計13人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長、広聴相談係長 計9人		
諮 問 事 項	警察における災害警備活動と地域防災対策		
会 議 内 容	<p>1 会長挨拶 司会 副署長</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>3 協議 司会 会長</p> <p>諮問事項説明</p> <p>警察における災害警備活動と地域防災対策～署長</p> <p>【委員】実家が輪島市にあり、正月帰省していたことから被災を経験した。実際、実家で揺れを感じた時は動くことができなかった。私の実家は倒壊することはなかったが、地震が起こった時は建物から外へ避難した方が良かったのか屋内に留まっているのが良かったのか答えが出せず、考えさせられる。4日には京都へ戻ってきたが、地震から2、3日経つと警察や消防など被災地へ救助活動に来てくれていて、本当に有り難く心強く思うことができた。この場をお借りしてお礼を言いたい。両親は避難所に行っており、実家は半壊して建物は傾いてドアが閉められない状態であったが、貴重品は何とか持ち出すことができた。避難所での生活においても必要な貴重品類は持ち出しておく必要があった。しかし、箆箆が倒れて保険証が取り出せず、どこに貴重品を保管しておけば良かったのかなど考えさせられた。改めて、貴重品の保</p>		

会 議
内 容

管場所や食料など備蓄の置き場所についても考えさせられる。今回、能登の場合は地理的な条件など救援や支援が遅れる地域もあり、そこでは3日分の備蓄では食料や水が足りないという事態も起こった。田舎で小さな集落であったため、誰が帰省しているのかなどが把握できており、皆で助け合って救助して避難することができた。もし、これが都会や京都で起こればどうなっていたのだろうと心配に感じる。その教訓を生かして自分たちで備えられるものは準備しておく必要がある。

【警察】貴重品の保管については警察から、「こうして下さい。」と話すことはできない。貴重品は大切であるが、まずは生命が大事であるため御自身と家族の安全を確保してほしい。そのために、被災地には集中的に全国からパトカーや機動捜査隊などが応援派遣されて治安を守る活動も行うため、安心していただきたい。

【委員】警察のパトカーが被災地を巡回しておられ、その姿を見た人たちは安心できるだろうし、そういった意味では有り難いと感じる。

【委員】一般的に災害対策として備蓄は、3日分の食料や飲み物が必要だと言われている。避難する際は備蓄の食料と飲み物を持って行くことになっているが、実際には持って行かれる方は少ないのが現状ではないかと思う。

【委員】震災など災害が起こった場合は、下鴨警察署などが対策本部になるのではないかと思うが、左京区にある川端署と下鴨署の施設は古く、建物の耐震はいかがなものか。各行政区の中京署や下京署など新しく庁舎ができているが左京区は進んではいないのか。

【警察】プランがあり京都府の方から公表されているが、いずれは再編整備され、川端署と下鴨署が統合される。左京署として左京区全域を管轄することとなる予定である。まだ具体的な日程などは示されていない。

【委員】震災に限らず、台風や大雨で避難勧告が出されると思うが、当然左京区の方で水や食料が備蓄されているものと思っていたが、左京区役所では備蓄はされていないと聞いた。京都府としては備蓄はどのように考えておられるのだろうか。警察署単位で備蓄までされていないと思うが、今後、備蓄は必要になってくると思うので、警察の考えとしてはいかがなものか。

【警察】警察は部隊活動を行う想定として最低限の水や食料の備蓄は準備しているが、一般の方までの備蓄は想定していない。

【委員】私は地元地域の役をしており、これから地域で災害時の避難や備蓄などに関して会議を行う予定である。今、皆さんが御心配されているとおり、震災の避難所では3日分の備蓄では全く足りなかった。当地

会 議
内 容

域では、小学校にかなりの量の水を備蓄として保管していただいている。しかしながら多数の避難者が来られた場合は、計算しても一日として足りない量である。大事なのは地元の事業所の方などと連携し、各家庭では少しずつでも備蓄してもらい、地元の専門的な販売店などの協力が不可欠であると思う。まず全部を備蓄だけで賄おうとするのは不可能ではないか。そのため地域では事前に協定を作っておかなければならないと考えており、現在、地域で活動を進めているところである。

私の想定で、先ほど説明いただいた災害発生時の「安全の確保」という大切な項目が抜けていることに気付かせてもらった。災害発生後、貴重品が盗まれるという話を聞くと我々はどこまで対策すれば良いのかと思ってしまう。被災者にとっては大事な問題で、少し落ち着いてから何かをやろうと思っても必要な物が盗まれてしまうと様々な手続きなどもできなくなり困ることとなる。以前、この会議でも少し話をしたことがあったが、警察とも協議した上で地域の皆様に話の内容を広めていかなくてならないと思う。阪神淡路大震災の時よりも今回の能登半島地震で被災地の状況が細かく報道されており、色々と勉強させてもらえる機会になった。今からでも地域の皆さんと相談して、方が一、震災が起こったとしても被害を少しでも食い止める工夫をしていきたい。防災と言っても実際には様々な被害があると思うが、建物の被害一つにとっても皆さんが事前に少しの準備を行い、被害を減らしていくことが大切と感じる。そのためには地域の皆さんと会議の場を設けてあらかじめ相談しておくことが大切であると思う。認識不足から備えをしなければ、いざ震災など災害が起こった時、どうしようかと困ることになるため、まずは地元のネットワーク作りから行っていくことが大事なことだと思う。

【委員】警察署は災害に対する取組を行っておられるが、各御家庭は家庭でしかできないことがあるのではないか。地域のつながりが濃い所は泥棒も入りにくいと聞いたこともある。そのような地域は、知らない人が歩いているだけで、「あの人何かおかしいなあ。誰なんだろう。」と普段から関心を持たれている。同じ場所に地域の全ての備蓄を貯めこむことは効率的ではなく不可能だと思うので、やはり各御家庭で少しずつ備蓄をしておくことも重要なことではないかと思う。

【委員】社会福祉協議会では、65歳以上の助けが必要な方の名簿を持っておられ、民生委員では70歳以上の一人暮らしの方のリストを持っており、地域包括支援センターと協力されている。誰がどのような助けを求めておられるかなど希望を聞いておられるので、地域包括支援センター

会 議
内 容

と連携して、地域と協力していけば良いと感じた。

子供が別々で暮らしている際に被災した時、誰に相談できるかや、信頼できる大人を見分ける方法など子供たちにも非常時の対応力を身に付けてもらいたい。訓練は訓練で終わってしまいがちであるが、今回の震災は身近に感じているため、様々な震災の報道がされている今のうちに、考えていければと思う。そして、新聞には水よりもトイレが大切だということも載っており、震災が発生して3、4時間が経つと皆がトイレに行きたくなって集中してしまう。それを考えると固まるトイレなどもあることから、食料や水だけではなく、各自で準備できるものは備えておかなければならないと改めて感じた。

【委員】先ほどの署長の説明をお聞きし、避難命令が出て、警察や消防、自衛隊などの部隊が一同に派遣されて集まった場合、現場で情報が共有されるシステムになっているのかと、現地対策本部では情報が集約されて共有できるのかについて伺いたい。

【警察】現場で各部隊が情報共有されていることが理想である。現場で実際には、情報共有は難しい状況となる。先ほど、写真で見ていただいた災害救助活動で出動した現場では近くに消防隊と自衛隊もいたが事前の情報共有はできていなかった。当初、消防はこの場所、自衛隊はこの場所とバラバラに活動を行っていたが、効率的ではなかったことから、その時は、自衛隊、消防、警察の指揮官がテントの中に集まって協議をすることにした。そこで、協議をして救助活動を行うことになった。その現場においては、この方法が最良であったと思っている。

【委員】要支援者リストの件であるが、地域ではこのお年寄りを連れて避難しなければならぬといったものがある。そのリストは社会福祉協議会のそれぞれ責任者が持っておられるが、個人情報保護の観点からも情報共有は非常に難しい問題がある。能登の震災の場合も不明者リストを出して良いという方と出しては駄目だという方もいる。ただ地域のつながりの中で、あのおばあちゃんがないといった情報は、現場ではリスト以上に有効な情報の一つになるのではないかと思う。トイレの問題も厳しいが、簡易トイレの準備をしても、現実的には厳しい状況なのではないか。情報共有のネットワークが非常に大事だと思う。警察は警察の業務を行ってもらい、地域の間人として「何もかも警察にお願いしますわ。」ということでは回っていかないと思う。

【委員】災害はいつどこで起こるか分からない。どこで何が起こったのかという情報を知ることが大切になってくると思う。情報があれば、大阪の地下街にいたとしても、大阪で津波が起こったという情報があれば、直ぐに地下街から避難しなければいけないと判断することができる。

会 議
内 容

災害は地震だけでなく水害などもあり、備蓄の話もあったが、震災では家屋の1階部分が倒壊しているので、備蓄の保管場所も2階にも保管するなど分散も行わなくてはならないと思う。改めて災害は恐ろしいものだと感じた。

【委員】震災が通学中などに起こったりした場合、家族とどうやって連絡を取れば良いのだろうかと思った。

【警察】大きな災害が起こった場合、電話会社が災害伝言ダイヤルが設置される。それを通じて連絡を取り合うという方法がある。事前に家族同士で災害が起こって連絡が取れない場合などを想定し、集合場所を決めておけば落ち合うこともできるので一つの手段となる。災害の種類や被害状況にもよるが、何箇所か集合場所を決めておくことも有効と思われる。前もって準備をしておけば、災害が起こった場合でも落ち着いて行動ができると思うため、日頃から一度御家族で話し合われて考えていただきたい。

【委員】災害の発生直後は通信手段がなくなる場合も予想されるので、家族と集合場所を決めておくことは有効であると思う。能登で被災した時には2日間は携帯電話はつながらず災害伝言ダイヤルも利用できない状況であった。停電により携帯電話のバッテリーが減り続けて充電もできない状態であったので参考にしていきたい。

【委員】区役所では水ぐらいの備蓄しかないと聞いている。阪神淡路大震災が起こった時に神戸に住んでおり、その経験を踏まえてお話させてもらうが、当時、まだ携帯電話の普及も進んでおらず、長い期間、被災地では家族ともなかなか連絡を取ることができなかった。周辺では犯罪も多発していたという状況も見られた。

災害はなくならないと思うが、その都度、反省点や改善点が出てくるものと思う。それを踏まえて備えていかなければならないと改めて感じる。何名かの方から御意見があったとおり、災害が起こった場合は地域のつながりが大事になってくる。日頃から、そういう事を地域でも話し合いをしたり、取り組んでいただければ有り難いと思う。まだ取り組まれていない地域の方も今後地域で取組を進めていただければと思っている。

【委員】災害など有事の際は、やはり地域のつながりが大事になってくるとい御意見をいただき、地域の皆さんが助け合っていかなければならない。ネットワークの強い地域と弱い地域では格差が生じると思うので、ここにおられる皆様方が地域を強くするため、努力していくことが大切になるのではないかと感じた。

【委員】中学校では避難訓練を3回行っており、一つは水害対策でグラウン

会 議
内 容

ドへの避難訓練を行っている。二つ目は防犯訓練で学校に不審者が入ってきたことを想定した訓練を行い、三つ目は1月に震災を想定した訓練を行ってきた。始業式には全校生徒に能登地震の話をさせてもらい、生徒の中には、祖父や祖母が石川県に住んでおられて京都に出てきたという方もおられ、帰省した際に被災して怖い思いをした方もいると聞いている。子供たちにとって震災のニュースを見て心配したり気に掛けるということも大切なことではないか。子供たちもニュースなどの報道を見る中で、学校での訓練も真剣に取り組んでくれたのではないかと感じている。避難訓練では、子供たちは避難指示に従って行動しグラウンドまで一目散に走って行き、避難場所へ集合し点呼が完了するまでの時間を確認したところ、4分11秒という非常に早い良い結果であった。福井県の学校へ学年主任と避難訓練の視察へ伺ったことがあり、その学校の先生は「訓練と言えども命を守り切りするため、100点か0点かしかない。そのような気持ちで取り組んでほしい。」とおっしゃっていた。もちろん時間の問題だけではないが、震災に対する意識は高まったのではないかと思う。

また不審者が入ってきた時の対応で、出入口が一箇所しかない教室があり、出入口が壊されたり、逃げ道がなくなるなどの事態が想定されることから、学校では改善を要する事は、教育委員会にも伝えて改善の整備を進めていきたいと考えている。

【警察】 阪神淡路大震災で京都から派遣されて災害活動を行った経験があるが、地理も不慣れで現場の詳しい状況を把握することが困難であった。救助を必要としない場所に部隊が投入されるのはもったいない話であり、可能な限り地域の情報を現地の対策本部であるとか現場の者に知らせていただくと助かる。火事場泥棒などの被害も実際にあったが、被害が特定できない場合が多く、犯人を検挙するところまでは難しい現状であった。警察の警戒活動以外で、地域の方でも対応いただけるのであれば男性数名で車を使ったりして見回りを行い、見せる警戒を行うだけでも防犯の効果は高いと思われるので、御理解と御協力をお願いしたい。南海トラフ地震が起こった場合は、ライフラインが寸断される可能性が高いと予想されている。大阪市内は、ほとんどの地域が水害に遭って停電したり、携帯電話も使えない状態が予測されるため、御家族とは複数の集合場所などを設定しておかれることが大切になると思われる。また、貴重品の持ち出しについては、多くの物を持ち出そうとするのではなく、現金や通帳類など最低限必要となる物を小さい鞆に入れるなどして持ち出せるよう準備をしておくことが大切なことではないかと思いますので参考としていただきたい。

会議 内容	4 事務連絡 令和6年度第1回下鴨警察署協議会は、令和6年6月頃の実施予定とする。 <p style="text-align: right;">以上</p>
----------	--

第4回京都府下鴨警察署協議会の開催状況

